



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL(058)244-0150 FAX 244-0151
ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~gikyoo/>

この度、岐阜県交響楽団の「岐響通信 ひびき」への寄稿をお願いされました。昨年からクラシック音楽と縁遠い私が当楽団の副理事長を務めさせていただいております。そのこと自体大変僥倖なことと思っておりますので、何を書いて良いやはたと困りました。



「創立65周年記念演奏会に向けて」
公益社団法人 岐阜県交響楽団
副理事長 池田 直樹

今年4月、目出度く還暦を迎えましたが半世紀も前、小学生の頃はその当時流行の習い事「オルガン教室」に数度通い、直ぐにいやになってやめてしまいました。家には誰も弾かないオルガンが長く残りました。中学生になると吹奏楽部でトロンボーンをやっていた実兄の影響から

トランペットを吹き始めました。親にねだり銀色の新品を買って貰いました。今は無い日本管楽器という会社の製品で、もちろん初心者用の普及品でしたが、三つのピストンバルブの上と下の所や差管の一部が金色で気に入っていました。得意になって吹いていたのは、ドヴォルザーク交響曲第9番第2楽章冒頭！と言っても、何のことは無いその頃の学校の下校時間に流れていた家路(遠き山に日は落ちて)の主旋律くらいで、こちらも才能に恵まれず、どうしてもトランペットの魅力である明るく軽快な音色や高く澄んだ音色を出すことが出来ません。結局、中学卒業間近な頃から楽器ケースに仕舞い込んだままとなりました。

この頃はいわゆる思春期で、少しでも背伸びをしたい姿が、誰しも後から思うと恥ずかしい時代です。音楽も日本の歌謡曲はダサい、洋楽特にハードロックがかっこいい、いやいやメタルそれ

れもヘヴィメタがいいと意気投合した友達とレコードを集め、英語の歌詞はさっぱり意味不明でも大音量で聴いていました。最初は不純な動機だったけれど、大好きになったティーパープル、レッドツェッペリン。レッドツェッペリンのリーダーで偉大なギタリスト、ジミー・ペイジは70歳を超えた一昨年の7月、1971年の広島公演以来44年ぶりに広島を訪れ原爆慰霊碑に献花をしました。また、かのクラシック界の巨匠カラヤンが絶賛した彼の代表曲「天国の階段」は、私が中学二年のこの71年に発表されています。

そして私は、高校から大学と進むにつれてまっとうな(平凡な)学生らしくフォークとかニューミュージックとか言われるジャンルの音楽に親しむようになりしました。下宿の片隅にギターを置いたけれど、南こうせつ「神田川」にあるような切なくロマンチックな出会いも、まして別れもありませんでした。今放映中のNHK朝ドラ「ひよっこ」の主題歌「若い広場」を歌っている桑田佳祐が、「いとこのエリー」を大ヒットさせた19

79年に、私は十六銀行の就職面接を受けました。それからおよそ四十年、この歳に至るまで、クラシック音楽に触れる機会が多くは無かった私ですが、光栄にも岐阜県交響楽団とご縁をいただいたことに、今心から感謝いたしております。音楽にも久方ぶりに、興味が湧いてきました。

そして来年、楽団の創立65周年記念演奏会は、岡本理事長様の格別のご尽力により12月9日(日)に愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて、指揮者に松尾葉子さん、ソリストとして上原彩子さんをお招きし、じゅうろくプロムナードコンサートとして開催されることが予定されています。私も副理事長として微力ですが、記念演奏会の成功に向け楽団関係者の皆様と共に精一杯頑張る所存です。

(十六銀行 副頭取)

柴田祥先生

インタビュー

柴田先生には以前「マーラー」復活の時に副指揮をしていただきましたが、今回初めて定期で振っていただきます。そこで、まずは先生ご自身のご紹介をお願いします。

自分は実は脱サラの指揮者なんです(笑)。

高校を出てサラリーマンを六年くらいやりましたが、どうしても中学校の教員になりたくて、脱サラしました。吹奏楽部の顧問がやりたくてやりたくて、、、音楽大学の音楽教育専攻へ進みましたが、採用試験は全く歯が立たず、だめでした。三十歳を過ぎて大学を出たのですが、大学職員をやりながら、舞台に関わる仕事をしたいと思い、ステージマネージャー、制作、演出助手なども経験致しました。学生時代からオペラサークルで指揮を振っていたこともあり、副指揮もさせていただいています。

その中で井村誠貴さんと言うとても素晴らしい指揮者に出会い、この世界に入ることを決めたのです。

井村さんはその時、「指揮やってくなら他のことは全部捨てて指揮だけに専念しな」と仰いました。(本人は覚えてないらしいですが...)井村さんは全ての考え方がポジティブ、プレイヤーに対しても、お客さんに対してもポジティブなんですね。そういった部分でもとても勉強になることがあります。

指揮活動はオペラでスタートしましたから、基本的にはオペラの間です。今はそこから広がって、いろいろなところへ行かせていただいています。指揮科を出ているわけではなく、現場で育て上げられた人間です。全然経歴がないんです(笑)一般的には東京の音大の指揮科を出てくる指揮者が多いので、現場で育てられて、というパターンは珍しいと思います。

先生ご自身はどんなタイプの指揮者だとお考えですか？

こういつて良いのかわからないですが、そんなにプライドは高くない

です(笑)。絶対全部がこうでなくてはいけない、という考えはしていません。オケのみなさんと、一緒にこういうことをしていきたいでしょう、と提案していきたいと思っています。引つ張っていくというよりも、一緒に作り上げていきましょう、というタイプの指揮者だと思っています。また、自身がアマチュアプレイヤーとしても何年かやってきたので、そういう意味でもどうしたらうまくいくかな、というのが少しでも見えるかなと思います。

今回のプログラムについて、お話しただけですか？

今回の曲目に共通しているのは、全てに踊りの要素が含まれていること。例えばチャイコフスキーの1番では、その後のチャイコフスキーが発展させていくバレエの要素が、すでにこの初期の曲である1番にも含まれています。各曲にあるそういった要素を、どう繋いでいくかというところは重要だと思っています。また、練習中何度も言っています。まず楽譜ありき、ということも大切にしています。特にモルダウ、アルルの女は有名な曲だけに、記憶で弾かれている、吹かれている、ということが多いので、楽譜をゼ口から

見直すという意味でいい機会になればと思います。これは自分自身も含めてです。

各曲について、先生が大切にされていることはどういったことでしょうか？

モルダウはについて。どこで川の水源地が発生して、どこに繋がっているのか。その中にたくさんクレッシェンド、デクレッシェンドがあります。スタートがあつて終わりがあります。練習中にも言いましたが、例えばカメラでモルダウ川の撮影シーンがあつたとして、ずっと川の流れを追っていく中で、例えば、ここはこういう流れだよ、流れの途中にこんな村があるよ、結婚式をやっていたよ、月の光が差してきたよ、、、というシーンが表現出来ればと思っています。

アルルの女について。場面がどんな変わっていく曲で、1つ1つの曲が何を表しているか、ということが表現出来ればと思っています。例えば、この組曲の前奏曲は、オペラ版でも前奏曲であり、オペラ全体の内容を表している曲なのです。組曲で聴いた場合、単にカッコいい曲、楽

しい曲、というイメージで聴いてしまいがちで、オペラの中身が見えてきにくいかもしれません。しかしアルルの女という曲は、こんなに色々変わっていくんだね、こんなに情熱的なんだね、というオペラの中身があったんだ、ということに気付いていただけのような演奏になればと思います。

チャイコフスキーについて。

交響曲第一番は初期の曲ですが、先程も言いましたように、ここから先、その後のチャイコフスキーの重要な作品であるバレエへと繋がっていきます。この交響曲第一番にもそれが見え隠れしていて、特に3楽章には踊りの音楽が入ってきます。チャイコフスキーのその後がどういう展開をしていくのか、ということが見えてくるとおもしろいかなと思います。

岐阜県交響楽団を指揮された印象をお聞かせ下さい。

岐響と初めて関わらせていただいたのは、マラー「復活」の時、副指揮として入らせていただきました。その時、とてもしっかりした団体だと思ったので、僕なんか呼ばれないなと思っていました。今回

お話をいただいた時も、最初アシスタントだと思ってたんですよ。そして指揮者としてだったので、これは頑張らないか！と思いましたね。オケとしては成立しているのですが、その中でどう自分を活かしているのか、というのを考えています。岐響はアマオケなだけでプロオケのようなしつかりした部分があって、オケに対して自分がこうしたい、と思った時の反応も早いのでやりやすく、自分の中でも音楽を前向きに作れています。



先生のプライベートを少しお聞きしてもよろしいですか？

元々アマチュアから音楽をスタートしていて、やっぱり趣味は音楽です。今はそれが仕事になっているので、常に楽しいですね。指揮することはもちろん、楽譜を勉強することも全て楽しい。もちろんその中で壁はいっぱいありますから、ぶつかりますけど、それでも前向きです。先にもお話ししましたが、指揮活動を始めるに当たり、それまでの仕事を全部捨てた当初は、食っていない時もありませんが、今はポジティブに生活も出来るようになっていきます。どんな壁にぶつかって凹んでも、それですら楽しくて、とにかく今は前向きです。

今年御結婚されたと伺いました。おめでとうございます！

はい、今年の1月に結婚しました。奥さんの実家に入ったのでマスカさんと一緒です(笑) 新しい家で自分の書斎も作ってもらって、至れり尽くせりです。結婚して一番いいのはやっぱり家に帰ってご飯がある、ってことですかね。

先生の今後の抱負をお聞かせ下さい。

どちらかというと、この東海地方で活動していきたいと思っています。ここで自分が出ること、自分が提案していきけること、をしていきたい。もちろんプロオケに行きたいというのがありますけど、それよりも地元のお客と一緒に盛り立てていきたい、音楽が広がっていく一つになれば、と思っています。

岐響にアドバイスを一言お願いいたします。

岐響は練習時にぶつかった時に早い反応をしてもらえますし、ぶつかり返してもらうこともあって、そこはとてもやりやすいなと思っています。そのぶつかった時、そのエネルギーがさらにどんどん前に開いていくといいなと思います。少し停滞の方向に行くこともあるので、どんどん前に行く、そういう効果が出てくるとさらにいいのではないかなと思います。

ありがとうございます。

インタビュー H r 畑 匡人

岐響団員が語る！ 楽器の魅力・楽器との出会い 楽器への思い ヴァイオリン編

○まずはこの楽器の一番の魅力から♪

オーケストラでは一番大人数で演奏できる楽器で、楽器としての一体感が味わえ、また、時にファースト、セカンドと違う役割を味わえるところでしょうか。また、音色の美しさ。オーケ

ストラの主要な旋律を弾けるという魅力もあります。

○音色の特徴は？

主にオーケストラの主旋律部分を担う楽器なので合唱で言えばソプラノ。音域は高い方に位置します。特徴は弦楽器特有の柔らかく艶のある音色です。

○難しいところ、失敗しやすいところは？

オーケストラの楽器の中で一番音符が多いので楽譜のページ数が多いです。目立つ音域のため常に正確な音程を取れるように練習が必要でもあり

ます。

また、上記の通り目立つので音程やパートとしてのまとまりにも神経を遣います。

○他にも色々あるようです：

・弾き続けると首や肩こりがひどい。左手の指の皮がむけてしまったり、首にあざが出来る。

・管理は思うほど大変ではないが、極度な湿気や乾燥で音色が変わったり弦が切れてしまったりするため湿度管理に気を遣う。半年〜1年以内に弓の毛替えが必要だったり、弦も劣化するので定期的に張替えが必要。また、ピアノの調律のように数年毎に調整に出す必要もある。

・真夏の気温の高い日が続く頃に、室内で楽器をケースに入れて置きっぱなしにしていたら、背板のニスがケースにベタリとくっついてニスが剥けてしまったことがあります。

「彼女の紹介」

本間秀明

舞台、客席側から見ると左側の軍団の中に彼女はいる。彼女と出会ったのは、20年程前か、私の一目ぼれであった。赤茶色のボディ、くびれた腰、小顔の抜群のプロポーション、何よりも美しい歌声に魅了された。時々甲高いヒステリックな奇声を出すのがたまにきずではあるが、それは、彼女のせいではない。すべて私が悪いのだ。出会って以来、私は妻以上に彼女と語らっているが、なかなか振り向いてくれない。私の思いを受け止めてくれるのは、いつの日か。

彼女は、イタリヤ出身。私より24歳年上である。彼女の部族は、世界各地に子孫を残し、人気スターも輩出してきた。人気スターともなると、世界の富豪が億単位の金を積み、投資の対象にもなった。誘拐される、人質になるなど悲しい歴史もある。歌声で虜にし、パートナーの人生を破滅に追い込んだこともある。映画、TVドラマにも何度か出演した。「ミュージックオブハート」「パガニーニ 愛と狂気の」：「レッド」：「のだめカンタービレ」等々。最近では、「カルテット」というTVドラマに出演した。お相手役は、松たか子、松田隆平。もう少し聴かせどころを増やして欲しかったというの

が私の感想。

私は、いずれ彼女と別れることになる。前カノの時のように、私自身が新しいパートナーを見つけたかもしれないが、もともと私と彼女では、寿命が違いすぎる。彼女の部族は長生きで、300年は生き続けると言われている。私と別れた後、彼女は成熟し、大人の女としててはやされるかもしれない。もしかしたら、私の息子が、新しいパートナーとなるかもしれない。それでもいい。私と付き合っている間は、私の喜怒哀楽を受け止め、歌い語ってほしい。時々、彼女をストレスのはけ口にし、暴力をふるってしまってもあるが、私は彼女なしでは生きられないのだ。
(誤)・彼女 正:愛器またはバイオリン



「憧れのオーケストラ」

玉木みゆき

ヴァイオリンとの出会いは四歳の頃。自分からやりたいと言ったわけではなく、気が付いた時には兄に見放されたヴァイオリンを手に持たされ、毎日練習してレッスンへ通うのが当たり前前の生活になっていました。家で練習するのは好きではありませんでしたが、みんなで合奏するのは好きで、月に一度の合奏レッスンや夏合宿、年に一度の発表会を楽しみにしていたことを覚えていいます。

初めてオーケストラの演奏を聴いた時にはその迫力や音の響きに感動し、私もいつかこんな曲を弾いてみたいと思うようになりました。進学した大学には管弦学部が無く、少人数の弦楽サークルで活動していましたが、オーケストラ経験のある友人の話を知ったのでオーケストラに憧れる気持ちは大きくなっていきました。就職のため岐阜へ戻ったことをきっかけに岐阜県交響楽団へ見学に行き、その時に中学時代にお世話になった先生と再会したことで入団を決意。けれど、それまでオーケストラ経験が一度も無かった私は、次から次へと演奏会のある忙しい岐響についていけないか不安でいっぱいでした。少しドキドキしながら受け取ったオーケストラの楽譜。開いたページには、

それまで見たことのない記号、どうやって弾いたらいいのか分からない奏法や、矢印や波線などの様々なマークが書き込まれており戸惑いました。練習中には、アンサンブルの難しさも痛感させられました。入団当初は分からないこと、出来ないことばかりで、間違えないように弾く事だけで精一杯でしたが、

同じパートの先輩方から弾き方や楽譜への書き込み方を教わりながら少しずつ慣れていくと共に、オーケストラの音の響きを楽しめるようになりました。岐響は定期演奏会以外のコンサートも多く、次々と配られる楽譜の練習に追われる毎日ですが、オーケストラで演奏できる今ではそれも楽しみの一つとなっています。

今年で入団して五年目になります。弾いたことのない曲や知らない曲が多い、まだまだ経験の浅い私ですが、今までヴァイオリンを続けてくれたことに感謝しつつ、これからも岐響の一員として音楽を楽しんでいきたいと思っています。



「岐響一年生」

安岡梓

私とオーケストラの出会いは中学2年生の時でした。当時習っていたヴァイオリンの先生に勧められ岐響ジュニアオーケストラに入団しました。

音楽好きの両親の元、3歳の頃からヴァイオリンを習い始めたものの、練習もレッスンも嫌いで何度もストライキを起こして中断していたそうです。

ジュニアオーケストラに入ったときも楽譜は読めないし、友達はいないし、しばらく合奏を楽しむ余裕もなかったのですが、毎週の練習や演奏会、合宿などのイベントを通して徐々にアンサンブルが楽しくなり、みんなとひとつの曲を作り上げていくオーケストラの醍醐味を知ることが出来るようになりました。優しく声をかけて下さったお姉さんや指導の先生方のお陰と感謝しています。

ジュニアオーケストラ卒団後、岐阜県交響楽団に入団させて頂いた時、ジュニアオーケストラ時代にお世話になった先生方がいらつやだったので新米の私にはとても心強かったです。

毎週土曜日の練習の前には必死でパートの練習をしたり、音源を聞いたりして出かけ、練習場では指揮者の先生の素晴らしいご指導を受けられることが現在の私の肥やしになっています。



年齢も職業も幅広く、又、遠くから練習に来られる方も多い団ですが、毎週土曜日の練習はほぼ全員参加という皆さんの熱意が演奏会の源になっていると思います。この熱意こそが過去のサントリーホールやウィーン・ムジークフェラインザールでの公演という偉業を成し遂げられ、今後も大きな夢へと向かっていけるのだと思います。その歩みに加わらせて頂くことを本当に嬉しく思っています。

今のところ、最年少団員の私ですが、ご多忙や老眼に屈せず音楽に取り組み、岐阜県交響楽団の歴史を育んでこられた皆さんの姿を拝見し、私も細く長くこの団で演奏をしていけたらどんなに幸せだろうと思っています。

岐響ジュニアオーケストラだより

「練習のバックヤードツアー」

2nd Vn 西本多恵(小6)

今日は土曜日。時刻は1時半。私はオケの練習場にいます。まず、いすなどをならべ、準備をしなくてはなりません。ところで、みなさんは「オケの練習」ときかれると、どんなことを思うのかべますか？そこで今日は練習について詳しく説明しましょう。

2時。パート練習が始まります。ここでは、指使いや弓使いを丁寧に確認します。

また、難しいところをおさらいして、弾けるようにします。はじめ、うまくできなくても、お姉さんたちがやさしく声をかけてくれ、一緒に弾いてくれます。だから私は、練習がいやだなんて思ったことは一度もありません。

3時。分奏。ここでは打楽器、弦楽器だけが合わせて弾きます。

「じゃあ、ライオンからね。」

と先生が言った。みなさんは一瞬なんですか？と思ったでしょう。オケで弾く曲は長いため、楽譜にはアルファベットの印がついています。つまり、ライオンは「L」のことなのです。こういう感じで言われると、やる気がわいてきます。

3時半。合奏。管楽器も一緒に吹きます。先生はここでも楽しい言い方でみんなを笑わせます。

4時。休けいをはさみ、後半の合奏です。指や腕もよくうごき、一番集中できる時間です。

4時45分。今日の練習がおわり、あそび子、練習する子とそれぞれ仲間との時間を過ごします。

私はオケの練習でこんな力がついたと思います。①他学年の人と話せる。②相手を思いやるようになる。③あきらめずに努力できる。です。ぜひみなさんジュニアの演奏会に来てください。そして、先生や私達の努力を思い浮かべながら演奏を聞いてもらえると、とてもうれしいです。

「チェロトップとして思うこと」

Vc 石井魁人(高2)

私たち岐響ジュニアオーケストラは、ほとんどが学生で部活感覚でオーケストラを楽しみながら日々練習しています。チェロパートは大学生2人高

校生1人、中学生1人という岐響ジュニアオーケストラの弦楽器の中で一番人数が少ないパートです。でも、それを影響させないくらい熱心によつてまかせず行い、チェロを始めたばかりの子もすぐに上達することがあります。チェロパートはオーケストラを支えるパートであり、とても重要で責任重大なパートでもあります。その事もあって人数が不足していることは深刻なことです。私は小学3年の頃にこのオーケストラに入団し、パートのトップは今年で5回目になります。私の知ってる限りここまで人数が不足したのは初めてです。その分、トップの私にかかる負担はとても大きいのです。さらに私は高校2年生になり大学受験も次第に意識してきた頃になってきました。やはりそれなりに個人練習の時間も削られていくなか、他のパートとも連携をとってチェロパートを支えていくのはとても大変で難しいです。でも、これは今でしか体験できないことでもあり、この経験はとても重要なことです。私はこの経験がない限り今後大学生になり、社会にでたときに苦しむことになりました。それは指示待ち人間になってしまい何もかもが苦になつてしまうからです。それを鍛えるためにはトップは必要不可欠なのです。それはチェロのトップだけでなく他の所

でも鍛えることができます。それはTYOCの運営委員です。そもそも、TYOCとは、トヨタ青少年オーケストラキャンプの略で、全国のアマチュアオーケストラを活性化する為に全国からたくさんのお友達が仲間が集まり、有名な講師のもと研修を行い、そこで学んだことを地方に持ち帰り各オーケストラの育成、発展の為に行っています。その運営委員を自主的に行うことで、オーケストラの技術面の向上だけでなく、計画力や、生活面・練習面の支援の仕方や広告力など様々な力を向上させることができます。そのようなことを考えると、やはりオーケストラに所属することは重要なことだと思います。

「私にとってのジュニアオーケストラ」

1st Vn 山本千晴(大2)

こんにちは。岐響ジュニアオーケストラの山本千晴です。

私たちは岐響ジュニアオーケストラは、小学生から大学生までの約50人で構成されたオーケストラです。年齢の上下は関係なくみんな仲が良く、まるで一つの大家族のような温かさのある団体であるのが特徴です。

メインとなる4月の定期演奏会に加え、12月に行われるクリスマスコンサートや岐阜県交響楽団ファミリアコンサートに出演するなど活動の場を広げており、毎週土曜日の練習ではこれらの演奏会に向け団長の服部岩夫先生、指揮者の古宮山和夫先生をはじめとしたユーモア溢れた指導者の先生方のご指導を受け、よりよい演奏を目指し切磋琢磨しています。一つの音に対しても、「こは、こは、こは」という表現の仕方がいい」「こは、こは、こは」という演奏法が良い」など、ときには意見がぶつかり合うこともあります。そんなときには、試行錯誤して最終的に皆が「きつとこれが一番いい」と納得できる音楽が見つかるまで音楽をトコトン追求していくことで、一つのハーモニーを全員で丁寧に着りあげています。

これは、ソロでは決して味わうことが出来ないであろう楽しさです。私は小学校の時にジュニアに入団し、今年でちょうど10年目になりますが、ジュニアがなければ今の自分はないと言っても過言ではないくらい多くの事を学び、多くの素晴らしい先生や仲間に出会いました。岐響ジュニアでの活動を通じて、私たちは自分が出来ないことを、出来る子から見て、聴いて、「真似」し、お互いに教え学び合うことで演奏技術の向上を図ること、音楽の

楽しさを知ることはもちろん、協調性やコミュニケーション能力、豊富な音楽知識、感性などそれぞれが持つ長所を伸ばし合うことで豊かな人間性を磨いているのではないかな、と私は思っています。

現在、定期演奏会に向けて一生懸命練習をしています！

是非、岐響ジュニアの演奏会にお越しください！



「岐響ジュニアオーケストラ」に関わって

岐響ジュニアオーケストラ

団長 服部 岩夫

創立以来三十有余年が経ち、この4月23日(日)には「ぎふ清流文化プラザ長良川ホール」に於いて「第31回定期演奏会」を開催することが出来ました。これも団員や保護者の皆様の地道な努力は言うまでもなく、それを温かく時には厳しく物心両面から見守って頂いている皆様方のご理解とご支援の賜と感謝申し上げます。

団員は小学生から大学院生までの幅広い年齢層で「みんな仲良く元氣よく」を合い言葉に、名曲の美しいアンサンブルやハーモニー作り挑戦しています。

多感な幼少の時期より名曲に挑戦できること、兄弟姉妹また親子と一緒に演奏できること、さらにそのバックには岐響が控えていることなど、恵まれた環境の中で切磋琢磨しています。誠に羨ましい。

さて、高校生や大学生も所属しているのに、何故『ユースオーケ』でなく『ジュニアオーケ』なのでしょう。この『ジュニア』は岐響のジュニア(二世)と考えて

います。

例えば岐響の「ファミリアコンサート」は親子、兄弟姉妹、祖父母など、ご家族で気楽に音楽を楽しんで頂く事を目的に実施していますが、その「岐響のファミリア」としてジュニアオーケも毎回参加させて頂いています。

また、ジュニアオーケの演奏会では岐響の方々に演奏のお手伝いをして頂いています。ジュニアオーケの団員が岐響の中で一緒に演奏をさせて頂くこともあります。

さらに、ジュニアオーケで培った経験を生かし岐響に入団される方も多く、またまたそのお子さんがジュニアオーケに入団されるなど、ますますファミリア関係が広がっています。

だから名称は「岐響ジュニアオーケストラ」なのです。

今の組織となつて12年を迎えました。それに伴いジュニアオーケ世話係の高齢化(一部)が進んでいます。また、団員の皆さんは最近の土曜日、祝日が忙しく練習に参加しづらいなどの課題もあります。

今後は、さらに多くの方々に運営にも携わって頂き、時代に則した組織改編等に若々しい息吹を吹き込んで欲しいと思います。

17'岐響ファミリーコンサート 2017/3/19 長良川国際会議場

今回も沢山のお客様にご来場いただき、また沢山のご感想をいただきました。その中から僅かではございますが、ここにご紹介させていただきます。

- ・ファミリーコンサートではまさに親子で幸せな時間を過ごすことが出来ました。息子はシャンソンに聴き入り、祭りはやしに体を揺らし、手拍子と大盛り上がりでした。ドラムを見つけて「タイコ、タイコ!」と言っていました。夫も私も仏文学が選考でしたので、レ・ミゼラブルは懐かしさで一杯でした。フランス語の歌詞が次々と浮かんで来て、10年近くフランス語に携わっていた日々を思い出しました。来年もまたファミリーコンサートに行きたいな、今からもう楽しみです。
- ・静けさの中のフルート、オーボエ…心にしみ込み、ホッとなぐさめられ、これでいいのだ、と生きる尊さと平和を感じ、改めて井村氏率いる岐響の音楽に感謝します。いつも楽しみにしています。
- ・岐響ジュニアオーケストラの若々しい演奏、琴と雅やかなコラボレーション、シャンソンの感情の世界を楽しませていただきました。オーケストラの皆様がメイン奏者を思いやる演奏に爽やかさを感じておりました。管弦楽のラプソディはめっちゃ楽しかったです。管弦楽団の方々も楽しんでみえる気がして引き込まれました。圧巻はレ・ミゼラブル。井村先生の“夢はこわれるもの、しかし夢は持ち続けて欲しい。苦しいときでも音楽は身体を動かしてくれる”との言葉が耳に残っております。難しい曲をあれほど弾きこなされる皆様に心から感動しておりました。演奏を聴かせていただき本当に良かったです。ありがとうございました。
- ・全てを通して、大きく脱皮して、チェンジ・チャレンジの姿勢が伝わりました。多文化、多様性、創造性の3つのキーワードが全てあてはまるように感じます。岐阜県の誇りであり続けてください。応援しています。ありがとうございます。
- ・いつも行われる「指揮者コーナー」、とてもおもしろい企画ですね。数十年前に家内が指揮者をやらせてもらった事をなつかしく思い出しました。次回もコンサート楽しみにしております。ありがとう。

